

1993(平成5年)4月11日(日)全国版

ボランティア社員 ぼのぼの交流

日本電気の43人 施設園生と1泊2日



「太陽の家」園生らと一緒に土いじりする日本電気社員

日本電気の社員四十三人が十日、東京都日の出町の精神障害者更生施設「日の出太陽の家」(滝沢博施設長)を訪れ、一泊二日で園生との交流を始めた。会社が休みの土、日曜を利用して、交通費なども自前のボランティア。経団連社会貢献部も「先駆的な試み」と評価している。

家族連れ 大挙、手弁当で

この訪問は「ボランティア一緒にフィールドアスレチックコースの修理、畑の草取りをしたほか、ゲームや歌を楽しんだ。

世話役の井上志志さん(48)は「毎日、会社と家を往復ばかりでは地域社会との接点がないが、新しい活動にかかわれば、社会のいろんなものが見えてきて、新しい価値観も生まれるのではないか。会社にとっても、部署を超えた交流で新たな人の結びつきがで

き」と思い立った理由を語る。高校二年の長男健君(15)も一緒に連れてきた。家族五人で参加した等原由博さん(45)は「初めてのボランティアだが、気遣いすることもないというのが実感。同じ作業をして、相手(園生)の気持ちも分かってきた」と顔をほころばせた。

「太陽の家」でも「企業人にも、利益優先でなく、市民として責任を果たしたい」という感覚が芽生えてきたようだ。(滝沢施設長)と歓迎する。

「太陽の家」はオーブンから今年で七年目。二十代から六十代まで三十二人の園生がいる。昨年はボランティア団体のメンバーや小中高生、大学生、家族連れら三千三百人が陶芸体験などで訪れたが、企業人の集団訪問は初めて。

日本電気では今年一月、本社ビルのホールで開いたコンサートに身障者五十人を招待、社員が介助役をしている。